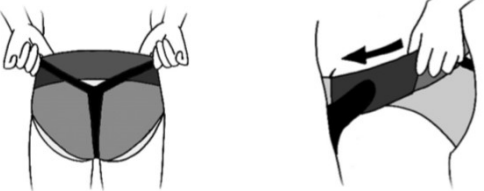



Q	A	医療関係者向け補足
<p>1 骨盤底が支えられている感じがしない。</p>	<p>●おしり側のY字ストラップに緩みが残っている可能性があります。おしり側を深く履き、腰回りに親指を差し込んで軽く後ろから前にしごいて緩みをとり、ストラップが身体に沿ってピンと張るようにしてください(汗をかいているときに着用すると緩みが残ります)。Y字ストラップの軸部分が浮き上がってしまう程引っ張らないように注意してください。</p>  <p>※どうしても緩みが取れない場合は、サイズが合っていない可能性があります。腰囲と後股上を正確に測り、適切なサイズを選んでください。</p> <p>●面ファスナーの留め方が適切でない為、着脱部中央に隙間がある可能性があります。着脱部中央(W字状になっている部分)に隙間が出来てしまうと、サポーターの持ち上げる力が逃げてしまいます。面ファスナーをもう少し左右に引っ張り、着脱部中央(W字状になっている部分)が腹部に沿うようにはいてください。</p> <p>●臓器の下垂が充分に戻っていない状態で履いている可能性があります。仰向けに寝て腰を持ち上げた状態で、下垂が戻るのを数分待ってから着用してみてください。</p>	<p>体表面の摩擦抵抗が汗などによって高くなり、腰周りが均一に伸びない場合/腰囲が緩めの物を着用した場合にストラップに緩みが残る</p> <p>胴回り背中側の伸縮部を引っ張りすぎてY字ストラップの軸部分が身体から浮き上がってしまうと、肛門部に力が伝わりにくくなる</p> <p>サポーターによって膣を閉じた位置よりも上に臓器を戻す必要がある</p>
<p>2 おなかの部分がきつい。</p>	<p>●着脱部(W字の縫い目がある部分)を強く持ち上げすぎている可能性があります。着脱部は、おなかのふくらみより下の骨盤で履いてください。あまり強く持ち上げなくても、5cm程度持ち上げれば十分効果があります。</p> <p>●面ファスナーを左右にきつく留めすぎている可能性があります。面ファスナーは、あまり左右に引っ張る必要はありません。サポーターがずり落ちない程度に軽く引いて留めてください。</p> 	<p>サポーターの効果に影響するのは上に引く力のみで、横に引っ張る力は影響しない</p>
<p>3 おしり側がずり落ちてくる。</p>	<p>おしり側が充分深く履けていない/着脱部を持ち上げすぎている可能性があります。前側はおなかより下の低い位置で留めてください。一般的なガードル等と同じ感覚でおなか側を引っ張ると、背中側がずり落ちてきてしまいます。ストラップと着脱部の継ぎ目がちょうど肛門あたりになるようにして、<b>後ろは深めに、前は浅く履いてください</b>。改善しない場合はサイズが合っているか確認してください。</p>	<p>後ろ→骨盤上端近くまで (約半数はやや浅履き※Q6参照) 前→W字の部分が前腸骨棘の高さより下になるように</p>

4	外陰部に食い込んで痛い。	股間部の、ロール状に丸まっている布地を広げるようにして履くと外陰部にフィットして当たりが柔らかくなります。サポーターの力が、肛門付近ではなく陰部に加わっている場合には、別紙「着用のポイント」を参照し、正しい着用ができているかを確認してください。上記でも改善されない場合は、サイズがあっているか確認してください。	おなか側を引き上げすぎたり、サイズが小さい場合、陰部にも力が加わってしまい陰部に食い込む可能性があります。また、背中を深く履いていなかったり、サイズが大きくて背中側がずり落ちている場合、力の加わる方向がズレて陰部に力が加わり、陰部に食い込む可能性があります。
5	ストラップが尾骨に当たって痛い。	ストラップには、尾骨のあたりにスリット(切れ目)が入っています。スリットの間尾骨がくるように調整して着用してください。	
6	おしり側が骨盤上端まで届かない。	約半数のかたは、おしり側を深く履いても骨盤上端までは届きません。その場合も、ストラップと着脱部の継ぎ目がちょうど肛門あたりにくるように履けば、全体が浅履きになっても全く問題はありません。	N/K各サイズの設計値より骨盤が深めの場合、浅履きになる
7	パッドを付けて着用すると効果が弱まる。	次のような方法で改善が可能です。 ・パッドに縦の折り目を付けて、ストラップが入りこみやすくする ・着用後、ストラップを手でおしりの割れ目に入りこませる ・パッドを付ける位置を少し前よりにずらす ・パッドを薄めの物に変える	ストラップの会陰体に対する挙上力をパッドが阻害しないようにする
8	ペッサリーと併用できるか？	骨盤底サポーターは単体でご使用いただけるものですが、ペッサリーの脱落防止などで併用して使っていただいている事例もあります。	
9	ストーマを使用している。	患者様の体型にもよりますが、問題なくご使用いただいている事例もございます。 ①着脱部がストーマにかからないか、②腰囲に余裕があるか の2点を確認してサイズ選択してください。 腹部の柔らかいメッシュ部分がストーマに接触する可能性があります。サイズの下限付近ではいただいていた場合などはメッシュの張りが緩い為、問題ない可能性が高いです。	サイズ測定キットのNやKの上端の高さ ≒製品着用時の着脱部の上端の高さ
10	肛門からの直腸脱に使用できるか？	膀胱瘤・子宮脱・直腸瘤など膣経由の臓器脱を対象とした医療機器ですので、肛門からの脱は対象外です。しかし、肛門を押さえる仕組みのため、肛門からの直腸脱の方にご使用いただいている事例も数例あります。「手で押さえなくてもよくなった」「以前より安心感がある」というお声をいただいております。	

稀に、患者様の体質によっては以下の症状が発生する可能性があります。

①	腰痛持ちの方・・・腰痛の悪化	腰回りを締め付けすぎて血行が悪くなっている可能性があります。マジックテープを留める際は、左右に強く引っぱらず、ずり落ちない程度に留めてください。改善しない場合は使用を中止して医師に相談してください。	
②	大腸が過敏な方・・・下痢	サポーターの着用が刺激となって下痢を誘発する場合は、かかりつけ医や消化器内科の医師にご相談ください。	

弊社webサイトのQ&Aページも随時更新しております。  
URL: <https://adam-med.co.jp/pfs/pfs-qa.html>

